

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム若葉園 南館		
所在地	熊本県多良木町多良木1537		
自己評価作成日	令和3年9月27日	評価結果市町村受理日	令和3年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若葉園をご利用頂いてからも、ご本様やご家族様が大切にされていた事を私達も共有、大切にしてお一人、お一人の声を大切にし、気持ちに寄り添い、住み安い環境を提供し生きたい様に生きて頂くお手伝いをし寄り添ったケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して以来地域の中での充実した生活を支援してきたが、コロナ禍という現状にホーム内での楽しみ毎等季節行事を充実させ、入居者の活性化や笑顔ある日常を支援している。管理者の変更の他、リモート会議、記録の変更(タブレット使用)等新型コロナウイルス感染対策に試行錯誤した1年ではあるが、このことが更にケア充実へ反映させている。入居者もユニット毎に年齢の差や平均介護度に違いもあるが和やかな日常が見られ、ケア検討会議を生かしたプランニングや、職員一人ひとりが課題を目標としてケア知識や技術向上を目指しており、志向の高さが確認された。立地性を生かした地域交流もコロナ禍で難しいが、これまで築き上げた関係は息づき、昨年度の大水害時には被災者を受け入れる等非常災害時の地域の拠点として今後も期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をフロアなどに提示し、職員が理念を理解しサービス提供において理念を意識しケアにつなげている。	開設時からの理念6項目を具体的に示し、ホーム内への掲示により地域及び職員への啓発の一環としている。理念を場面毎に(尊厳・残存能力・生活環境等)話し合いを行い、ケアサービスに反映させることとしている。新型コロナウイルス感染症発生に当たり、地域と繋がりがながらの生活は難しい状況にあり、誕生会や季節毎の行事を工夫した年である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において地域との関わりや交流が難しくなっている。施設周辺を少人数で散歩に行ったりし近所の方々と挨拶を交わす程度にとどまっている状態である。	散歩中に近隣住民からの声掛けや挨拶、入居者の安否を尋ねられる知人等はあるものの、コロナ禍という状況に外出や交流を制限している。開設当初より地域高齢者の為に行ってきたグラウンドゴルフ若葉園杯はホームからは参加はしていないが開催している。中学生の職場体験実習を受入れ入居者との交流としている。	これまでの地域との関係性が希薄にならないよう、コロナ収束に目処がたれば地域住民との交流再開に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で事業所からの積極的な活動は行っていないが、運営推進会議の内容や利用状況など、写真などを掲示し、区長、民生員などに配布し、住民の情報や相談を受けたりし、助言を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設に来て頂き会議を行う事は出来ていないが、文章で包括や行政機関、家族に配布している。包括や行政に出向いた時などに質疑や助言などを頂いている。	運営推進会議は一堂に会しての開催が出来ない時期には、書面報告として行政や区長、地域包括支援センター、民生委員等に届け、その場で質問や不明な点等の助言を頂き、ホーム運営に反映させている。	今後も、集まることが難しい回の運営推進会議時には書面を持ち届けながら、行政や委員からの質問、提案事項等も聞き取りされており、記録に残す事を検討頂きたい。この会議の役割が更に発揮できる事と大いに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課へ出向き、相談など積極的に行き協力関係を築けるよう努力している。行政機関の相談も可能な限り努力をし、支援に取り組んでいる。	行政や地域包括支援センターとの繋がりを継続させるため運営推進会議の報告書を持ち届けし、情報や助言をもらう等密に連携を図っている。特に、新型コロナウイルス対策等メールや通達等行政から寄せられている。また、地域包括支援センターからの入居相談による入居等のケースもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず年1回は研修を行い認知症状を理解し利用者方々の尊厳を大切にしている。日頃より、接遇や身体拘束について意識し職員同士で注意しながらケアに取り組んでいる。	玄関に「拘束・虐待ゼロ宣言」を掲げ、毎年の研修や新規入職者には随時研修を行うと共にニュース等報道により把握した事案はその都度話し合い、共通認識としている。転倒リスクや立ち上がりの不安軽減として家族の同意を得て人感センサーを設置している。また、外出したとの欲求には職員の同行により玄関先に出る等入居者一人ひとりの状況を把握し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修や指導により理解を深め、職員同士で注意しケアに取り組んだり、時々介護ケアへの振り返りなどしている。職員のストレスやケアに対する不安を聞き取り改善にできるよう話し合いを持つようしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名成年後見人対応の利用者様がおり、研修などで職員へ制度について説明し、対応、理解につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より、施設説明などを行い、不安や疑問点をお聞きし、納得して頂ける様に時間をかけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族様からいつでも相談しやすい雰囲気や環境作りに努めている。運営推進会議での家族様からの意見は、早急に職員間でケア検討し改善に努めている。来訪時には、管理者、ケアマネから積極的に話しかけ要望など伺っている。	家族の関わりが途切れない様便りによる情報発信(利用状況報告・健康・生活面等)を行うことで書面や手紙等により質問等寄せられ、家族からの要望等相談簿に記し全員で共有している。これまでは家族同士の交流としての敬老会等の行事や、運営推進会議で意見等も収集していたが、訪問も玄関先での短時間の面会に止め感染対策を徹底している状況にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、個々の職員と話す機会を持ち、運営上での気づき、提案を受けている。各棟でのミーティング時などの意見など回覧で共有している。	り毎月、各ユニットでミーティングを行い、話し合いの結果は全職員に回覧し共有化とし、全館でのリモート研修や申し送りもタブレットでの確認に変更している。職員個々が課題に対する目標を持ち(自己評価シートの活用)、振り返りながらケアに直結させる等意識の高いホームである。代表も毎日ホームを足を運び、入居者の状態や職員の状況等を把握されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に、希望休を聞き働きやすい環境に努め、有休の取得状況を見ながら、積極的に取得を促している。体調不良時も職員間で話し合い早急に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や資格所得への支援を行い意欲を持って取り組める様努めている。新人職員に対しても力量を把握し、各自に合った指導に心かけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加(研修や懇親会)により、情報収集や交換に努めている。職員でも研修などに参加しやすい様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に、本人様、家族様と面談を行い今までの生活状況、状態を情報収集し現状の状態を把握し、今後の不安要素など十分に聞き、職員間で情報を共有しケアに繋げている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で、ご家族様と時間をかけ、話しやすい環境づくりりに努め、ご家族様の話を聞き要望に添うようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の要望を十分に聞き取り、施設内での可能な限りでのサービスを十分に説明し、グループホームでの特色あるサービス提供に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活の中で、職員優先になる事なく、利用者様の尊厳、権利、自己決定などを大切にしご利用者様と、職員が協力し生活を実感できるよう見守り、サポートをしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子や状況など文書、写真などでお伝えし、施設優先でなく、本人様をご家族と共に支援して頂けるようにお伝えしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、本人様、家族様のすべての要望に答える事は出来ていない。面会も施設内に入って頂く事は出来ないため、感染予防を徹底し、顔が見える状態での面会を行って、ご家族様に理解して頂いている。	毎日早朝にホームで入居者の顔を見て仕事に出かけられる家族もあるが、感染予防を徹底する現状では面会もままなら無い状況にある。馴染みの美容室の利用や、近くの美容室でのカットや髪染めに出かけたり、時期をずらした初詣等出来る限りのケアにより馴染みの関係性を継続させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の個性や関係性を把握し、リビング、ソファ席での座席の配置や入浴の順番、余暇活動への取組みなど良好な関係が図れる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人様、家族様からの要望、相談を受け必要なサービス支援の提案や関係機関へ繋いで、今後の生活への不安が少しでも軽減する様にお手伝いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より、ご利用者様と話しが出来る時間や、環境作りに努め、難聴の方に時々寄り添い話しをする様にし、生活の意向や思いを把握できる様努め、情報を職員間で共有し添える様心がけている。	職員は時間があれば入居者に寄り添い話に耳を傾けている。耳が遠くても口の動きやゆっくりと話せば伝わり、何らかの意思表示が返ってくるとして職員は関わり、具体的に言葉としては無くても、本人の表情や行動、うなづき・首ふり等から推察し、把握した情報は全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人、家族、担当CMより詳しく話を聞き、情報をご本人様の望む生活ができる様努めている。細かい部分は、入居後共に生活して行く中で把握し、良好な関係を築く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状を把握するために、それぞれの職員からの情報を職員間で共有し、一人一人に合わせた関係性をもち、個別性を大切に生活支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本様、ご家族様の意見を大切にし、職員全員でミーティング、カンファレンスを行い、必要時には、主治医から現状説明や今後の状態を家族様に説明して頂き、良好なケアプラン作成、適切なサービス提供を行っている。	本人の言葉や家族等の声もそのままに意向として捉え、入居者がその人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ、個別の具体的なプランになるように留意している。毎月のケアカンファレンスや入居者及び家族の満足度等をふまえた評価等により今後の対応を検討し見直している。入居者の体調や変化を見極める一つとしてのケア検討会議もプラン見直しに生かし、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に毎日の食事、水分摂取、バイタルを記入、職員の申し送りの中で、情報を共有し、話し合いを行いより良い支援ができる様に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、ご本人様、家族様の要望や急な受診、外出の付き添いで家族様の対応が困難な場合には、勤務体制を整え施設で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	配達サービスのある薬局を利用する事で、待ち時間の短縮、施設を空ける時間の短縮で、サービス提供に対応できる様にしている。薬剤師への相談も気軽に出来る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の手厚い協力のもと、定期受診以外でも夜間、休日、急な状態変化、看取りへの対応もして頂いている。病状等の説明の時も、ご家族様の気持ちに配慮された説明をして頂き、ご家族様からの信頼もある専門医の受診が必要な時もスムーズに受診できている。	協力医療機関を全入居者がかかりつけ医として、コロナ禍以前は外出を兼ねて受診に出かけていたが、現在は往診が中心である。担当医との長年の信頼関係が入居者の日々の健康を支え、異変があればいつでも相談や往診してもらえる体制が構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニット、同じ敷地内、小規模にも准看護師がおり協力体制が出来ている。体調変化があった場合、すぐ報告し看護師より主治医に繋ぎ早急に対応が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族が対応が困難な場合は、入院の準備、必要物品持参、洗濯物の回収などお手伝いしている。入院による環境変化も考慮し、面会に行ける環境であれば毎日行き安心して治療できる様支援している。入院先の看護師、相談員の方とは、状態変化を共有し、関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で、重症化した場合や終末期での本人様、家族様の意向を聞き施設での対応できる範囲を説明し、本人様、家族様の希望に添いながら支援しているが、家族様の気持ちに変化があった場合、柔軟な対応に努め主治医と相談し取り組んでいる。	入居時に重度化・終末期について指針を基に説明し、来るべき時点で家族の意向をあらためて確認している。殆どの家族がホームでの看取りを希望されており、状態変化により主治医を交え家族との話し合う機会を作っている。病状によっては、医療中心の生活となる事も想定し、その都度家族と相談し、入居者自身の最良の支援を家族・主治医・職員がチームとして支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での研修や看護師に夜救急処置指導、急変や事故連絡など対応を職員間での確にできる様にしている。事故発生後には、早急に振り返りを行い、改善策を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施に努めているが、コロナ禍で通報訓練や消防署員の方に助言をして頂き職員だけの訓練を実施。避難施設としての体制の強化が必要と感じています。	コロナ禍に消防署は参加されなかったが、事前に指導を受け、2回の訓練を行っている。昨年の大水害時には、被災された住民を受け入れる等地域への貢献に寄与している。同敷地内にある学童施設が地域の避難所となっている。	備蓄は学童施設で一括管理されている。ホーム独自に準備することや避難所としての役割を担っていることを発信する事等が期待される。また、地震等の避難訓練や水害マニュアルの見直しも検討いただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者が、不快に感じない様な声かけや、言葉使いに注意し、職員同士で注意する。部屋に入ることには、必ずノックをする。	年間研修に接遇やプライバシー、個人情報の保護、守秘義務等を盛り込み、職員が再認識する機会としている。居室やトイレに入る際のノックの徹底や開けっぱなしの禁止、排泄時の声かけ方法や目配り・気配りを徹底しながら、自由に行動してもらう等の共有化を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で職員優先のケアにならない様に注意し本人様が選択出来る様な声かけに注意している。職員のや優しい声掛け、対応に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ぎて頂く事を大切にし、職員も柔軟な対応を心掛け個々の希望が出来る限り実現できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの色、形を優先している。清潔感を意識し、髪の毛の乱れや洋服のほつれ、汚染などに気づいた時は直ぐに対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の洗い物、お盆拭きや、野菜の下ごしらえをして頂ける方や、個々に出来る事を職員と一緒に取り組んでいる。	殆どの食材を地域からの配達とし、開設以来手作り料理にこだわり提供している。入居者も出来ること(野菜の下処理・お盆拭き等)で食に関わり、職員が個々の嚥下状態を見極め、お粥やキザミ及び代替食等検討し美味しく食べてもらうよう工夫している。誕生日メニューには入居者の希望を反映させ、おせつや季節の行事食が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取を確認し状態把握に努めている。低下時には、形態の変更や、嗜好品を提供するなどし摂取量維持に努めている。回数を分け提供するなどもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔ケアにあっている。ご自分でされる方も、見守り、声掛けなどで確認している。義歯の不具合、残存歯、歯茎の状態も細目に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認し、個々の排泄間隔を把握し、適切な声掛けにて誘導し、排泄の自立に取り組んでいる。トイレでの排泄が大切であることを認識し、支援につなげている。	個々の排泄状況を記録し、定時の誘導や個別の間隔を把握し、トイレでの排泄を支援している。また、必要な排泄用品の選択や、夜間のみオムツやポータブルトイレを利用し、天気の良い日には天日干しにて衛生的に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際に、牛乳や乳製品を提供し安易に内服を使用するのではなく、食事、水分、運動などからも予防、改善を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、個々の体調、希望など考慮し行っている。入浴の抵抗が見られる方もタイミングを合わせたり、2人介助を行ったりし楽しい入浴が出来る様にしている。	週2回の入浴を基本としているが、希望があれば随時対応しており、毎日入浴される方もおられる。排泄の失敗時にはシャワー浴による清潔保持に努め、状況によっては職員2名体制で支援している。冬場になると拒否される入居者や同姓介助の希望等に臨機応変に支援している。看取り期でも可能な場合にはシャワー浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望される時間に休んで頂いたり、体調や精神状態を把握し良質な睡眠が取れる様支援している。午後に休息を取られる方もおられるが昼夜逆転のない様時間に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は主治医、薬剤師と連携し効能、副作用他、きちんと理解し対応している。変更時にも記録、報告し職員間で周知経過観察し状態を医師に報告している。個人の状態に合わせ薬剤の形態も薬剤師と相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、嗜好別に取り組んで頂き多様に環境を整え対応している。職員優先にならぬ様、ご本人が望んでいる事が何か希望に添える様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか外出が出来ていないが、家族様の面会、町内への買い物や行きつけの美容院などへ職員と一緒に外出されている。	コロナ禍に外に出ることが制限されるなかで、感染者の減少や社会情勢をみながら、玄関先での短期間の面会や、天気の良い日には庭に椅子を用意しおやつしたり、近隣の散歩等ホーム周辺を活動の場所としている。職員の買い物に同行する入居者や、少しでも外出の機会を支援したいと受診のついでの買い物を支援している。	お盆や正月・お彼岸の時期には仏壇にお参りしたとの声も挙がるようである。コロナ収束に備え家族と連絡し合い、叶えられるかどうかの検討に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理でお金を所持されている方はいないが、ご本人の希望の品物など職員と一緒に外出し買い物されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物などがあつた際には、お礼の電話や手紙を書かれたりしてご家族様も喜んでおられる。ご自分で携帯を利用される方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち消臭には気を付けているが、過剰な芳香剤を使用せず不快にならぬ様配慮している。対面キッチンで利用者様には、料理を作る音、匂いを感じられる。職員の声の大きさにも注意を払っている。	両ユニットともにリビング中心の生活の場としてキッチンからの匂いや音を生活音として食の意欲を引き出し、壁面を利用した季節の飾り付けを定期的に見直すとともに職員の会話やトーン等も環境の一つとして居心地のよい住環境に努めている。玄関周りや正面入り口等輪番で掃除を行う等環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされる事が多く、ご自分の気にいった場所で気の合う方同士でお話されている。自室で過ごされる際は職員が時々遠視を行い安全に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご自宅で使用になっていた家具など持ってきて置いて頂き、大切な写真や手紙など飾り心地良く生活して頂ける様にしている。	入居時に、使いなれた物や馴染みの品の必要性を説明している。筆筒や写真等が持ち込まれ、職員により清潔と整理整頓が徹底されている。入居者の「自由に思うがまま」を尊重しており、洗濯ジワにアイロンをかけたリ、家族写真を毎日眺めて過す方、物の置き場所等個々のこだわりにより焦点を当て居室環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所間もない方へも、施設内の案内プレート等設置し、手すり、バリアフリーなど安全な環境を考慮しながら自ら生活を実感できるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム 若葉園 北館		
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1537		
自己評価作成日	令和3年9月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/51070.html">https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/51070.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>若葉園をご利用頂いてからも、ご本様やご家族様が大切にされていた事を私達も共有、大切にして、お一人、お一人の声を大切にし、気持ちに寄り添い、住み安い環境を提供し生きたい様に生きて頂くお手伝いをし寄り添ったケアに努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をフローアなどに提示し、職員が理念を理解しサービス提供において理念を意識しケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において地域との関わりや交流が難しくなっている。施設周辺を少人数で散歩に行ったりし近所の方々と挨拶を交わす程度にとどまっている状態である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で事業所からの積極的な活動は行っていないが、運営推進会議の内容や利用状況など、写真などを掲示し、区長、民生員などに配布し、住民の情報や相談を受けたりし、助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設に来て頂き会議を行う事は出来ていないが、文章で包括や行政機関、家族に配布している。包括や行政に出向いた時などに質疑や助言などを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課へ出向き、相談など積極的に行き協力関係を築けるよう努力している。行政機関の相談も可能な限り努力をし、支援に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず年1回は研修を行い認知症状を理解し利用者方々の尊厳を大切にしている。日頃より、接遇や身体拘束について意識し職員同士で注意しながらケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や指導により理解を深め、職員同士で注意しケアに取り組んだり、時々介護ケアへの振り返りなどしている。職員のストレスやケアに対する不安を聞き取り改善にできるよう話し合いを持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名成年後見人対応の利用者様がおり、研修などで職員へ制度について説明し、対応、理解につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より、施設説明などを行い、不安や疑問点をお聞きし、納得して頂ける様に時間をかけ対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族様からいつでも相談しやすい雰囲気や環境作りに努めている。運営推進会議での家族様からの意見は、早急に職員間でケア検討し改善に努めている。来訪時には、管理者、ケアマネから積極的に話しかけ要望など伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、個々の職員と話す機会を持ち、運営上での気づき、提案を受けている。各棟でのミーティング時などの意見など回覧で共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に、希望休を聞き働きやすい環境に努め、有休の取得状況を見ながら、積極的に取得を促している。体調不良時も職員間で話し合い早急に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や資格所得への支援を行い意欲を持って取り組める様努めている。新人職員に対しても力量を把握し、各自に合った指導に心かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加(研修や懇親会)により、情報収集や交換に努めている。職員でも研修などに参加しやすい様に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に、本人様、家族様と面談を行い今までの生活状況、状態を情報収集し現状の状態を把握し、今後の不安要素などに十分に聞き、職員間で情報を共有しケアに繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で、ご家族様と時間をかけ、話しやすい環境づくりに努め、ご家族様の話を聞き要望に添うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の要望を十分に聞き取り、施設内での可能な限りでのサービスを十分に説明し、グループホームでの特色あるサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活の中で、職員優先になる事なく、利用者様の尊厳、権利、自己決定などを大切にしながら、職員が協力し生活を実感できるよう見守り、サポートをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子や状況など文書、写真などでお伝えし、施設優先でなく、本人様をご家族と共に支援して頂けるようにお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、本人様、家族様のすべての要望に答える事は出来ていない。面会も施設内に入って頂く事は出来ないため、感染予防を徹底し、顔が見える状態での面会を行って、ご家族様に理解して頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の個性や関係性を把握し、リビング、ソファ席での座席の配置や入浴の順番、余暇活動への取組みなど良好な関係が図れる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人様、家族様からの要望、相談を受け必要なサービス支援の提案や関係機関へ繋いで、今後の生活への不安が少しでも軽減する様にお手伝いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より、ご利用者様と話しが出来る時間や、環境作りに努め、難聴の方に時々寄り添い話しをする様にし、生活の意向や思いを把握できる様努め、情報を職員間で共有し添える様心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人、家族、担当CMより詳しく話しを聞き、情報をご本人様の望む生活ができる様努めている。細かい部分は、入居後共に生活して行く中で把握し、良好な関係を築く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状を把握するために、それぞれの職員からの情報を職員間で共有し、一人一人に合わせた関係をもち、個別性を大切に生活支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本様、ご家族様の意見を大切にし、職員全員でミーティング、カンファレンスを行い、必要時には、主治医から現状説明や今後の状態を家族様に説明して頂き、良好なケアプラン作成、適切なサービス提供を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に毎日の食事、水分摂取、バイタルを記入、職員の申し送りの中で、情報を共有し、話し合いを行いより良い支援ができる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、ご本人様、家族様の要望や急な受診、外出の付き添いで家族様の対応が困難な場合には、勤務体制を整え施設で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	配達サービスのある薬局を利用する事で、待ち時間の短縮、施設を空ける時間の短縮で、サービス提供に対応できる様にしている。薬剤師への相談も気軽に出来る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の手厚い協力のもと、定期受診以外でも夜間、休日、急な状態変化、看取りへの対応もして頂いている。病状等の説明の時も、ご家族様の気持ちに配慮された説明をして頂き、家族様からの信頼もある専門医の受診が必要な時もスムーズに受診できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニット、同じ敷地内、小規模にも准看護師がおり協力体制が出来ている。体調変化があった場合、すぐ報告し看護師より主治医に繋ぎ早急に対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族が対応が困難な場合は、入院の準備、必要物品持参、洗濯物の回収などお手伝いしている。入院による環境変化も考慮し、面会に行ける環境であれば毎日行き安心して治療できる様支援している。入院先の看護師、相談員の方とは、状態変化を共有し、関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で、重症化した場合や終末期での本人様、家族様の意向を聞き施設での対応できる範囲を説明し、本人様、家族様の希望に添いながら支援しているが、家族様の気持ちに変化があった場合、柔軟な対応に努め主治医と相談し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での研修や看護師に夜救急処置指導、急変や事故連絡など対応を職員間での確にできる様にしている。事故発生後には、早急に振り返りを行い、改善策を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施に努めているが、コロナ禍で通報訓練や消防署員の方に助言をして頂き職員だけの訓練を実施。避難施設としての体制の強化が必要と感じています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者が、不快に感じない様な声かけや、言葉使いに注意し、職員同士で注意する。部屋に入ることには、必ずノックをして入る。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で職員優先のケアにならない様に注意し本人様が選択出来る様な声かけに注意している。職員のや優しい声掛け、対応に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ぎて頂く事を大切にし、職員も柔軟な対応を心掛け個々の希望が出来る限り実現できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの色、形を優先している。清潔感を意識し、髪の毛の乱れや洋服のほつれ、汚染などに気づいた時は直ぐに対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の洗い物、お盆拭きや、野菜の下ごしらえをして頂ける方や、個々に出来る事を職員と一緒に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取を確認し状態把握に努めている。低下時には、形態の変更や、嗜好品を提供するなどし摂取量維持に努めている。回数を分け提供するなどもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔ケアにあっている。ご自分でされる方も、見守り、声掛けなどで確認している。義歯の不具合、残存歯、歯茎の状態も細目に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認し、個々の排泄間隔を把握し、適切な声掛けにて誘導し、排泄の自立に取り組んでいる。トイレでの排泄が大切であることを認識し、支援につなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際に、牛乳や乳製品を提供し安易に内服を使用するのではなく、食事、水分、運動などからも予防、改善を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、個々の体調、希望など考慮している。入浴の抵抗が見られる方もタイミングを合わせたり、2人介助を行ったりし楽しい入浴が出来る様にしている。男性の利用者が2名おられるので順番にも配慮している。。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望される時間に休んで頂いたり、体調や精神状態を把握し良質な睡眠が取れる様支援している。午後に休息を取られる方もおられるが昼夜逆転のない様時間に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は主治医、薬剤師と連携し効能、副作用他、きちんと理解し対応している。変更時にも記録、報告し職員間で周知し経過観察し状態を医師に報告している。個人の状態に合わせ薬剤の形態も薬剤師と相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、嗜好別に取り組んで頂き多様に環境を整え対応している。職員優先にならぬ様、ご本人が望んでいる事が何か希望に添える様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか外出が出来ていないが、家族様の面会、町内への買い物や行きつけの美容院などへ職員と一緒に外出されている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理でお金を所持されている方はいないが、ご本人の希望の品物など職員と一緒に外出し買い物されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物などがあつた際には、お礼の電話や手紙を書かれたりしてご家族様も喜んでおられる。ご自分で携帯を利用される方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち消臭には気を付けているが、過剰な芳香剤を使用せず不快にならぬ様配慮している。対面キッチンで利用者様には、料理を作る音、匂いが感じられる。職員の声の大きさにも注意を払っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされる事が多く、ご自分の気にいった場所で気の合う方同士でお話されている。自室で過ごされる際は職員が時々遠視を行い安全に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご自宅で使用になっていた家具など持ってきて置いて頂き、大切な写真や手紙など飾り心地良く生活して頂ける様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所間もない方へも、施設内の案内プレート等設置し、手すり、バリアフリーなど安全な環境を考慮しながら自ら生活を実感できるよう支援している。		